

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670103904
法人名	有限会社 ドリーム・ミソノ
事業所名	グループホーム紫原
訪問調査日	平成19年9月25日
評価確定日	平成19年11月26日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

〔認知症対応型共同生活介護用〕

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 10月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670103904		
法人名	有限会社 ドリーム・ミソノ		
事業所名	グループホーム紫原		
所在地	鹿兒島県鹿兒島市紫原四丁目34番31号 (電話) 099-250-2643		
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿兒島県鹿兒島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成19年9月25日	評価確定日	平成19年11月26日

【情報提供票より】(H19年5月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 8 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 10 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 14.8人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建て	1階 ~	2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51000円	(光熱費込)	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有( )円		無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合	償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円	
	夕食	400 円	おやつ	0 円	
	または1日当たり		1100 円		

## (4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	6名	要介護2		2名	
要介護3	7名	要介護4		3名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 81歳	最低	54歳	最高	94歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	野井倉内科クリニック・田中整形外科クリニック・磯橋歯科医院
---------	-------------------------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿兒島市中心部の高台に位置した閑静な住宅街の中にある。近くには公園・学校・病院・スーパー等もあり、地域に出かけいろいろな人と接し地域との関わりを大切にしている。昨年は地域の夏祭りや文化祭に浴衣を着てステージで発表したところ、地域の方々に好評であった。職員は全員オムツ体験をするなど相手の立場に立った介護ができるよう。寄り添うことを大切に介護の質の向上にむけた取り組みを行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	市町村との連携についてホームから出向いて運営推進会議等の出席の依頼も行っているが日程調整が付かず出席に至っていない。今後もサービス向上に向けた積極的な取り組みを期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義を理解し全員で日常のケアについて振り返り、一つ一つの項目について検討・評価を行っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	民生委員・町内会長・消防署・警察署・家族等の参加のもと会議を開催している。行政からの出席がなく積極的な働きかけも必要かと思われる。報告に留まらずサービスの向上に繋がるような会議開催をできることを期待します。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月の行事予定表に入居者の様子や健康状態等を記入し、報告されている。又、面会時には家族に声かけを行い要望や意見を聞き、気軽に話せる雰囲気づくり心がけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会への加入・地域行事への参加・ボランティアや職場体験学習の受け入れ・勉強会への呼びかけなど地元の人々との交流に努めている。今後も範囲を広げた付き合いを検討中である。

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員が入居者・スタッフは地域の中で生活していることを意識した理念を作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで理念の唱和を行い、再認識できるような取り組みを行っている。寄り添うことを大切にしながら、自由に自分らしく生活できることをモットーに他者に危険が及ばないことを配慮した取り組みを心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会にも加入し、地域の行事(夏祭り・文化祭・幼稚園の運動会等)への参加も行っている。又、近くの園児や、ボランティアの受け入れ、中・高校生の職場体験会も受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を理解した上で職員全員で自己評価に取り組んでいる。改善計画を立て、目標を持って取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	いままでに4回開催し、民生委員・町内会会長・家族・消防署警察等の出席をしてもらっている。日程の調整が付かず、地域包括支援センターからの出席はない。		会議への積極的な参加呼びかけや日程調整の工夫も必要かと思われる。又、会議では、報告や情報交換に留まらず、参加者から意思・要望をもらい、サービスの向上にいかせるような取り組みを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所担当者・地域包括支援センターへの連携は数回行われている。又、運営推進会議への出席依頼もしているが、日程調整が付かず出席に至ってない。		市役所担当窓口や地域包括支援センターの担当者と気軽に話せるような関係作りや交流ができるように積極的な取り組みを期待したい。
4. 理念を实践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、ホームでの出来事や入居者の様子が分かる写真(個々に合せたもの)や行事予定表や金銭出納帳の写しを同封し家族へ郵送している。家族の面会時に金銭出納帳にサインをもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議を年2回開催しているが、会議の中で要望はあがってこない。意見箱も設置しているが今のところ、意見・要望の記載はない。家族面会時に声かけをして意見等を伺っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年の離職者は4人でいづれも一身上の都合によるものであった。その際の引継ぎは2~3週間程とっている。その後も慣れるまでスタッフがつく等の配慮も行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は研修案内を掲示し、職員全員が参加するように声かけをしているが自己研鑽としての出席ができていない。研修を受けた際はミーティングで報告し月1回の全体ミーティングで内容の確認を行っている。		サービスの質を向上させていくためには、職員一人一人が自己研鑽していく必要がある。年間計画を立てる等、職員自らが学ぶ意識を持てるような取り組みを期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの管理者同士の交流を行って意見交換をしている。職員採用時は他のグループホームで研修をさせてもらい他のグループホームの職員の研修受け入れも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	ケースバイケースではあるが、見学や入居体験をして頂き希望時には数回の体験をしてもらうなど、家族や本人が納得できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員は家族のような関係を保ち入居者とともに和やかな生活をおくれるよう、施設ではなく家庭という意識を持って対応している。入居者に生活の工夫・料理方法等を教わり、スタッフと一緒に実施している。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	日常の関わりの中で一人ひとりに寄り添うことを大切にしている。入居者の担当スタッフを決めモニタリング記録をする等、細やかな変化の気づきができるよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	家族の面会時には、希望や意見を聞いたりしている。毎朝のミーティングで伝達したり、意見を出し合い、モニタリング記録も行っている。これらを反映させた介護計画を作成している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	本人・家族・主治医・スタッフでの話し合いの場を設け、要望や希望・意見や気づきを反映させた計画を作成している。入居者の状態変化が生じた時はもちろんであるが月に1回は見直しができることを徹底している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望に応じて眼科受診の送迎や墓参りや帰宅送迎等も支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の納得のもと協力病院の受診支援を行っている。又、往診もしてもらっている。特別疾病のある場合かかりつけ主治医の往診、訪問看護もしてもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意思確認書を作成し、主治医の判断の下で家族との話し合いを行い、再確認を行っている。見取りについてはスタッフの経験不足もあり、介護に対する不安意見もある。現在は入院という統一した対処を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム便りに掲載される写真等は、家族にも了解を得た上でやっている。トイレ誘導などさりげなく声かけをするようにしているが、スタッフ間で気づいた時はカバーするように管理者も徹底を図るようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者一人ひとりのペースを大切にしよう心がけ、意思疎通が図れない人は寄り添うことで表情や動きから読み取り、本人が決める場面を作れるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ・配膳・後片付けなど食事に関する一連の動作を職員と一緒にやっている。一人ひとりの嚙下機能や好みを理解し食事の形態や食品を変更工夫している。外食時は利用者がメニューを選択するようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の状況に応じて入浴日を決めているが、シャワー浴はいつでもできる。現在入居者の希望で入浴日を決めているが一人ひとりの意思に添った支援を心がけ、入浴順を考慮している。入浴拒否の人に対しては、自ら入浴好意がとれるよう声かけの工夫を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	以前は床に寝そべったり、不潔行為があった人や訴えのなかった人が、スタッフの見守りや支援で改善がみられるようになり、現在は声かけて食器洗いができるなど、一人ひとりを見つめ、できる事とできない事を見極めた支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園への散歩が日課になっている。外出したがる人に対しては、声かけを工夫し、連れて行くようにしている。買い物や墓参りなどの外出も一緒に行くようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常において鍵はかけていない。外出したがる利用者は注意して見守り、一緒について行っている。地域へも一緒に挨拶まわりを行っている。日常外出で顔見知りになり、見守りや声かけ、連絡もしてもらっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年に2回、消防分遣隊の立会いの下で実施している。近所にも声かけし、応援の体制づくりも行っているが今後も協力を呼びかけるチラシ作りをも考慮中である。非常食の備蓄もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立やカロリー計算については協力病院の栄養士に相談しアドバイスをもらい、1600kcalとしている。水分は一日1500ml以上とれるよう毎食事、10時、3時の間食、就寝前にも促し介助している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からバリアフリーになっており、窓も大きく光が十分に室内に入り、換気も適宜行われている。季節に応じて畳を敷き、炬燵を置くなど工夫されている。又、談話室が設けられ、相談に応じたり、ゆっくりと過ごせるスペースとなっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や仏壇など持ち込まれ、入居者の作った作品なども飾られている。家族の希望に応じて宿泊もできるよう配慮されている。以前冷蔵庫を持ち込んだ人が居たが、入居者間でのトラブルや衛生面での問題が発生し、引き取ってもらい、現在は事務所の冷蔵庫を利用している。		